

ICT普及研総会

整備局 見学会も全国

た=写真。議事では、2013年度から1万立方於以上の土工でTS(トータルステ 普及研究会」の第4回総会が6日、名古屋市中区の名古屋合同庁舎第2号館で開かれ 108件と、ほぼすべてでTS出来形管理技術を活用していることなどが報告された。 ーション)出来形管理が一般化したことや13年度は施工者希望型工事でも115件中 産官学が連携して建設ICT(情報通信技術)の普及を目指す、「建設ICT導入

冒頭、同研究会会長の八鍬 | CT現場の見学会(同延べ33 | 「技術普及」「建設マネジメ

(3年度約580件) り組みをそれぞれ報告した。 推進戦略について」、青山憲 と利活用」と題し、全国の取 盤研究室主任研究官が「橋梁 度情報化研究センター情報基 明国土技術政策総合研究所高 課企画専門官が「情報化施工 総合政策局公共事業企画調整 における3次元モデルの流通 次いで、稲垣孝国土交通省 続いて、副会長の平出純一 【建設ICT】 1. 日 経 4. 読 売 7. 産 経 10.中部経済 ③建設工業 2. 朝 日 5. 岐静 日 8. 静 通 11.建 通 14.信濃毎日

取り組みを説明。会員総数は 中部整備局企画部長が同局の

CT技術の早期導入・普及に 1月末時点で392者で、 I

設計施工見直し」

ループ(WG)、 一情報化施

3. 毎 日 6. 中 日 9. 伊 勢 12.日刊工業 15.日本海事

部整備局はICTを使った工 となどを紹介した上で、「中 が全国に先がけ、8年11月に 隆中部地方整備局長は、同局

番となっている。今後もIC

回)の件数がともに全国で一

ント研究」の3ワーキンググ

を併用する現場管理と比べる

ズに行えた」「従来のレベル

Tを活用し、効率的かつ効果

的に公共事業を進めてほし

い」とあいさつした。

CTの研究会を設置したこ

朝 夕) P 7

> と出来形確認が非常にスムー るICT技術活用工事で実施 では「堤防盛土での丁張設置 年度完了の施工者希望型によ WG技術普及活動PTは、12 動内容などを報告。技術普及 でいることなどを紹介した。 して、TS出来形管理(土工) 及活動」「技術者育成」「調 ェクトチーム(PT)を組織 T導入技術検討」の4プロジ 査・計画・維持管理段階IC 工データ活用検討」「技術普 | と2分の1程度の時間短縮が した簡易アンケートの結果と し、諸課題の解消に取り組ん その後、各WG・PTが活 告。13年度の受講者は監督員 一できたと感じた」などの意見 計60人が参加したことを報 一理の講習会を開き、管内から があったことなどを紹介し 針を示した。 級が30%、主任監督員級が7 員を対象にしたTS出来形管 は、13年7月8-10日の3日 監督職員を対象に開催する方 %だったことから、14年度は 間、同局中部技術事務所で職 同WG技術者育成PTから

施工データ活用検討PTから 設計施工見直しWG情報化 3次元データ流通ルール

(案)を試行した道路、河川 各1工事の概要などを紹介。 路計段階でのデータが工事段階の完成断面形状と一致しない場合、施工者によるデータ修正が発生するため、いつ、でれが、どの段階でデータをだれが、どの段階でデータをでは、名四国道事務所の住人間の出籍を報告した。 同W G 調査・計画・維持管では、名四国道事務所の住人間道路について情報提供した。同局について情報提供した。同局について情報提供した。同局について情報といった、運用上の課題を報告。工事では、海内との関連を報告。工事では、海内とのででは、名四国道事務所の佐久間道路について情報といった、運用上の課題を報告。工事では、海内とのでは、名四国道事務所の佐久間道路に対した。 第1トンネル(浦川地区)で、C I Mを活用していることなどを紹介。

平成26年 2 月 10日((